私たち民医連は、無差別・平等の医療と福祉の実現をめざす組織です

東北メディカル・メガバンク機構　講演会
「震災被災と健康問題について」
講演①「地域住民コホート調査の結果と今後の課題について」
講師／寶澤　篤氏（東北大学　東北メディカル・メガバンク機構個別化予防・疫学分野教授、同地域住民コホート室長）
講演②「三世代コホート調査の結果からみえてきた ライフコースにわたる震災後の健康課題」
講師／栗山進一 氏（東北大学　東北メディカル・メガバンク機構分子疫学分野教授、同三世代コホート室長）
日時▶2020年11月14日(土)　(Zoom併用)
メイン会場▶坂総合クリニック1号館8階
主催／宮城民医連被災者健康調査プロジェクト(022-265-2601)

# みやぎ民医連

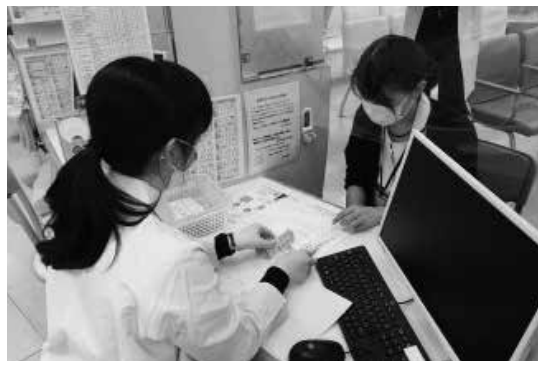
発行所　宮城県民主医療機関連合会
仙台市青葉区木町通1-8-18
〒980-0801　田村ビル５Ｆ
TEL　022－265－２６０１
FAX　022－263－８２６６
e-mail:dai@miyagi-min.com
発行人　坂　田　　匠
1日・15日　月2回発行　1部 50円

高校生のための薬剤師体験会

## 薬剤師を目指す学生の気持ちに寄り添って

みやぎ保健企画　朝田　俊典

薬学対では毎年、県内の高校生を対象に春休み、夏休みの期間、「高校生のための薬剤師体験会」を開催してきました。過去には1日に最大30名が参加するなど、薬剤師を目指す高校生にとても人気がある企画です。


模擬服薬指導

体験会では普段なかなか入ることのできない病院薬局や調剤室で実際に調剤機器や薬剤に触れることができます。また薬剤師が丁寧に説明することで病院や薬局を身近に感じることができます。更に、病院薬局と調剤薬局の違いなども知ることができるため、将来選択にも役立っています。参加した学生は推薦入試の面接で、体験を話題にしているそうです。

体験会には宮城民医連奨学金制度を利用している学生も参加しており、大学選択や受験勉強、大学生活などアドバイスをする時間も設けています。盛りだくさんの内容のため、参加した学生からは毎回好評を得ています。また、体験会の最後には、奨学金の説明と共に、薬科大の現状にも触れます。高い学費に加え、入学しやすく卒業しにくい大学が数多くあり、大学選択の面でも支援していきたいと考えています。

シロップ調剤

今年度は新型コロナウイルスの影響により春・夏の体験会は中止することになりましたが、春の体験会に応募してくれた高校生がいたのです。私たちは、学生たちの希望に何とかこたえたい！との思いから、少人数、短時間で臨時開催することとしました。早速、学生にメールや手紙で開催を案内するとすぐに「とても嬉しいです！ぜひ参加したいです！」との返信が。開催を決めて本当に良かったと強く感じました。

錠剤ピッキング

第二回目の臨時体験会は10月17日に開催し、県内2校から3名が参加しました。2時間という短時間ではありましたが、錠剤のピッキングや監査、軟膏やシロップの調剤、粉薬の分包、模擬服薬指導などを行いました。

参加した学生からは「薬だけでなく、その効果や患者さんの状態を確認しなければいけないことを学んだ。一方的に話すのではなくコミュニケーションをとることも薬剤師として大切な仕事だと知った」「大変そうな仕事だとは思っていたが、予想をはるかに超えた。調剤などの仕事がある中で、安全性を十分に確認する、それが重要な分とても大変そうだと思った」などの感想が寄せられ、参加した全員が満足していました。

錠剤ピッキング

薬剤師を目指す学生の気持ちに寄り添いながら、この活動を継続していきたいと思っています。

快く署名に応じてくれました

メディカルウェーブ

## 社会保障を充実させ、国民のいのちと健康を守る

10月16日、仙台駅西口ペデストリアンデッキでメディカルウェーブが行われました。「安全・安心の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための国会請願署名（いのちの署名）」への協力を訴え、署名用紙と封筒のセットされたものを手渡しながら署名をお願いし、約1時間の行動で１０２筆集まりました。

県内の公的医療機関や民間医療機関、介護福祉の職場で働く職員の労働組合と民医連で構成された「メディカルウェーブ実行委員会」が主催となって取り組まれました。コロナ禍の中で、医療や介護、福祉の現場では「マスクや防護具、消毒液の不足」「ＰＣＲ検査がすすまない」「外来患者の減少で倒産の危機に」「そもそも医師、看護師、介護士が足りない」などの声が上がっていることも訴えました。

医師、看護師、介護職員を大幅に増やし、安全、安心の医療・介護を実現すること、社会保障を充実させることを求めていきましょうと呼びかけました。「署名を集めて送ります」「病院ではたいへんお世話になりました」「医師も看護師も介護士も増やして」と話されて署名しています。

「エッセンシャルワーカー」の過重労働

## 心身の健康破壊の予防と補償が急務

Zoomでの参加

10月16日、働くもののいのちと健康を守る宮城県センター（いの健）主催で、２０２０年度「いの健東北セミナー」健康講話が行われました。講師は、仙台錦町診療所・産業医学健診センター産業医学センター長の、広瀬俊雄医師です。Ｚｏｏｍを使って行われ、県連内の各事業所ほか、東北各地の医療機関や団体から、約30名が参加しました。

講話のタイトルは、「コロナ禍での労働と健康の課題」。世界中で猛威を振るうコロナウイルスは、働く弱者である非正規労働者、フリーランス等に特に深刻な影響を与えており、政府にも見放されている状況です。生きるために就いた仕事は過酷で、心身に負担が重くのしかかります。

そんな中、自然災害や戦争によって生まれた困難を利用してより一層の収奪を推し進める「ショックドクトリン」が、このコロナ禍でも始まっているとのこと。菅義偉首相の取り巻きであり「残業代ゼロ制度」「成果主義賃金」の竹中平蔵氏、中小企業の数を半分に減らし大企業を中心とした産業構造への再編を主張するデービッド・アトキンソン氏などが、ショックドクトリンを推し進めようとしています。

コロナ禍の下、様々な産業で活動が制限されていますが、一方で医療・福祉・流通・配送業などの「エッセンシャルワーク」では、十分な予防措置もなく感染の危険に怯えながら過重労働が常態化し、心身の健康破壊への予防・補償が急務となっています。

新型インフルエンザ収束後の２００８年に「保健所や医療機関の充実」が政府報告書で提起されましたが、政府・財界は見向きもせず、逆行する政策を行ってきました。それが現在のコロナ禍を招いており、深刻な健康障害の最大要因となっています。

今回の講話を聞いて、特にショックドクトリンのところが印象に残りました。コロナ禍で苦しんでいる中で、火事場泥棒的に改悪を推し進めようとする政府や財界を許してはならず、変えていく必要があると感じます。

## 健康手帳

今年の秋は紅葉も例年より早く始まったように思い、季節の早足になんとなく焦りを感じます。▼先日、娘と車で買い物のつもりで出かけたのですが、天気がよかったので急遽「どっか行こう」という話になってしまい、「どこいく？」と話ながら走っていました。なんとなく秋保に向かっていました。で、仕方なくそのまま秋保。▼途中、秋保神社をみつけ寄ってみることにしました。秋保神社には初めて行きましたが、勝負の神様だそうで、のぼりを奉納し祈願するとのことでした。参道や周辺にはたくさんののぼりが立っていました。スポーツ選手や楽天・ベガルタのチーム、県外の高校の野球やサッカー、バラエティ番組名のものもあり、探すだけで楽しい時間でした。隣りにはかわいい作りのカフェがありホットサンドのランチをいただきましたが、見た目よりボリュームがありビックリ！おすすめです。▼急に気が向いて、ふらっと出かけて素敵なものを発見する喜びは、旅行というより「旅」という感じで、ちょっといい時間をすごせました。▼秋保神社は勝負の神様、みなさんがコロナとの戦いに勝てるよう祈願してきました。

# 女川原発再稼働は許されない

長町病院　組織課　平尾　伸二

東日本大震災時の状況を説明する多々良さん

「タイムリーな企画でよかった。報告者2人の話もとてもわかりやすかったです」「参加してよかったです。原発事故が起きたら、どこへ逃げようと無理だと思います。目に見えないものが風に飛ばされるのをどのように止めるのか、こんなことできないではありませんか」…女川原発再稼動をめぐる動きが緊迫する中、仙台南健康友の会主催でシンポジウム「女川原発の再稼動は是か非か?」を10月9日開催しました。会場となった太白区文化センターには43名が参加し、感染対策をとりながら、会場はほぼ満席となりました。

シンポジストの多々良哲さん（あいコープみやぎ顧問）と原伸雄さん（女川原発の避難計画を考える会代表）の話は具体的でわかりやすく、参加者からは冒頭のような感想が寄せられました。

福島第一原発の原因究明も遅々として進まず、いまだ数万人の方が住む家を追われたままの福島の現状。机上の空論としか思えない「避難計画」。県民の声を聞かずに再稼動に突き進むことは許されない、そのことを改めて痛感したシンポジウムでした。

女川原発・被災者支援・民医連　ピーチャリ

## 全ての職員が一緒に考え取り組んでいこう

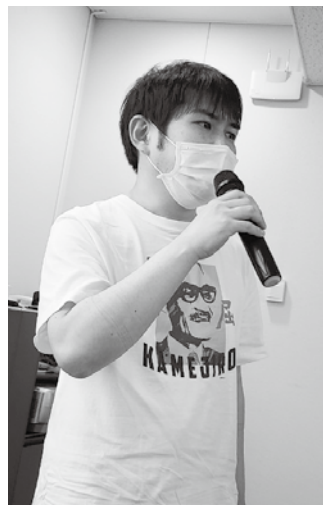
県連事務局　医学対　上田　克幸

10月4日に第13回反核平和自転車リレー（通称：ピーチャリ）が開催されました。本来は七ヶ浜町を走りつつスタンディング等のアピール活動を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため行動は中止になってしまいました。そこで感染対策を徹底した上で、Ｚｏｏｍによるオンライン参加を含め約40名で、坂総合病院内で学習会を開催しました。

学習会は2部構成で、女川原発の避難計画を考える会代表の原伸雄さんと、ピーチャリ実行委員長の千葉茂樹医師からお話していただきました。

原さんのお話で、女川原発を再稼働させるにあたって国が決めた事故時の避難手順を知ったのですが、とても実効性のある計画とは思えませんでした。避難経路が十分にないため渋滞の恐れがある、入院患者や高齢者の避難手段がない、５㎞～30㎞の住民は避難せずに自宅待機、避難所に食糧や水の貯蓄がない、その他にも不確定要素が多数ある内容でした。

千葉茂樹医師から、全日本民医連総会の方針と今後の課題、県連震災復興支援会議の活動、青年活動の重要性について話していただきました。総会の内容で印象に残った点は、現在65歳以上の医師が全体の25％を占める


「カメジロー Ｔシャツ」を着用して講演する千葉茂樹医師

という部分です。改めて民医連職員として、医師を目指す医学生の支援を充実させなければいけないと感じました。

また災害公営住宅で生活している被災者へのアンケートの結果では、経済的に日常生活が苦しいと感じている人が半数を超えていました。特に衝撃だったのが、経済的負担感を抱えている人ほど、身近に相談相手がいないという結果になっていることです。震災後に被災地での孤独死が問題になっていたにも関わらず、10年経つ今でも多くの方がこの悩みを抱えている現状に、同じ被災者として何とも言えない気持ちになります。

お二人の講演内容で改めて多くの疑問や問題点に気付き、職員どうしで考えなければいけないと感じます。若手職員も一緒に考えなければいけないのですが、現状業務で手一杯なのに加え、「民医連」を知らない職員が増えている状況です。決まった職員だけが努力するのではなく、年齢を問わず全職員が意識を持って活動できるようにすることが、宮城民医連の今後の課題だと思います。

女川原発の避難計画を考える会代表原伸雄さんの訴え

連載118

## 私の好きな憲法は何条?

～憲法第26条「教育を受ける権利」～

長町病院　健康管理室　保健師　斉藤　裕子

「○○ちゃんが大学やめて実家に帰るらしい」「○○さんはバイトに来なくていいといわれ、鬱になって入院した」

私の娘は今、大学2年生です。新型コロナ感染拡大の影響で、オンラインによる遠隔授業となり、キャンパスに足を運ぶ機会が減っています。9月末より後期授業が開始となりましたが、若者の感染が広がっていることから、現在も、遠隔授業と対面授業の併用となっています。

そのため①出席のみでよかった授業が、毎回のレポート提出やテストで課題が多い②一日中、パソコン作業で気がめいってしまう③アルバイトや親の収入が減り、学費や家賃が支払えなくなったなど、大学進学をあきらめたり、退学に追い込まれている学生が増えています。

このような状況で、私が、素晴らしいなぁと思う憲法は第26条で、全ての国民に「ひとしく教育を受ける権利」を保障しています。

国は、１９７０年代頃から「教育で利益を受けるのは学生だから本人が負担」という「受益者負担論」を打ち出し、学費の値上げを繰り返してきました。

当時約1万円代だった国立大学の学費は、現在約50万へと高騰しています。

教育を受けることは国民の権利であり、その権利は、出身家庭の経済能力で左右されてはいけません。何より学生が人類の英知を学び、技術を身につけて社会に生かすことは、社会全体の安定と発展につながります。

教育の最大の「受益者」は、国と社会にほかならないと思うのです。

私は、高校生の時に父が病死し、母子家庭となったため、看護学科ではアルバイト、授業料免除、奨学金貸与で何とか卒業し、免許を取得しました。育英会の奨学金返済は、数年前までかかりました。

世界では、高校も大学も学費は無償化、奨学金は給付制とするながれが主流になっています。また東京大学では、世帯収入４００万円以下の授業料免除の制度を先駆けて導入しました。

若者の未来のために、政府は、この国民の教育を受ける権利を保障するため、早急に対策を講じる責任があると考えます。

## 7つのマチガイ

［問題］上の絵と下の絵では7つのマチガイがあります！どこでしょう？（作・野上和彦）

クイズの解答は事業所名、氏名、職種を記し県連事務局に送って下さい。メールは不可。ファックスは可。正解者に抽選で5人に図書カードを進呈いたします。**余白に日頃考えている事などを書き添えて下さい。「声」の欄に掲載させていただく場合があります。**応募資格＝臨時・パート含む県連職員。締切12月1日当日消印有効。発表12月15日号。

## 県連職員紹介

県連に瀬戸友紀乃さんが、着任しましたので紹介します。次の質問に答えていただきました。①氏名②入職年③前職場④担当⑤出身地⑥居住地⑦趣味・特技⑧県連職員に一言

せと　ゆきの

①瀬戸友紀乃②２０１５年③みやぎ県南医療生活協同組合④復興支援・学連交⑤柴田郡⑥大河原町⑦映画鑑賞、スプーン曲げ（今はできないかも…）⑧一日も早く戦力になれるよう頑張ります。よろしくお願いします！